

発足総会には議連メンバーのほか、環境省や廃棄物処理業界関係者も多く参加した



産廃処理業の振興施策実現へ

産業・資源循環議連が発足

自由民主党議員で構成する「産業・資源循環議員連盟」が、14日に総会を開いて正式に発足した。循環型社会の構築および低炭素社会の実現に向けて、産業廃棄物の適正処理・リサイクルの推進、産廃処理業界の資質の向上とともに社会的な役割の一層の強化のため、産廃処理業における制度的、財政的な振興施策などの実現を図って行く。

6月には旧産業廃棄物対策議員懇話会メンバーや新たなメンバーを加えて設立準備会が開かれ、満場一致で議員連盟発足が可決されていた。会長には旧懇話会会長の丹羽雄哉衆院議員、会長代行には自民党組織本部長の田中和徳衆議議員が就任。会長代理に鶴保甫介

参院議員、幹事長に渡辺博道衆院議員、事務局長に片山さつき参院議員らが名を連ねた。丹羽会長は発足に際し、「われわれの原点は、あの豊島事件に見られるように悪質が良貨を駆逐するというものを廃絶し、優良な業者が胸を張って国のため地域のために仕事していたけるようにすることが目的である」などあいさつした。発足総会には望月義夫環境相ら環境省関係者、全国産業廃棄物連合会の石井邦夫会長をはじめとする産廃物処理業関係者も多く参加。今後同議連と連携しながら産廃処理業の発展に取り組んでいくことを確認し合った。